

# うたがき

筑波大学附属図書館 ボランティア広報紙

第 29 号 2019 年 3 月 発行



## 活動の場から

### その5 ～見学案内～

筑波大学附属図書館ボランティアの活動には「見学案内」という項目があります。新入生、留学生、中高生、一般、海外からの見学者等に図書館を案内するという活動です。

附属図書館は中央図書館の他、体育・芸術図書館、医学図書館、図書館情報学図書館、大塚図書館の5館で構成されています。そして中央図書館の3・4・5階は本館・新館共に人文科学(3階)、社会科学(4階)、自然科学(5階)とそれぞれの分野ごとに蔵書が配架されています。これらの基本的な情報のほかに、附属図書館は11,700冊の貴重書を所蔵しており、貴重書展示室をご案内する時には、貴重書の中には日本ではここにしかない「原マルチノの演説」があることなども紹介します。

中央図書館にはいろいろな大学の紀要(大学で出す研究論文が掲載された定期刊行物)が収蔵されている書庫があるので、時間があれば高校生にはそこを案内することもあります。将来何かの疑問にぶつかった時、筑波大中央図書館の190万冊の本の中にきっと答えが見つかるという思いを頭の片隅に持ち帰ってほしいと思っています。開学からの理念である開かれた大学の附属図書館として、より多くの方の見学をお待ちしています。ボランティア・カウンターに声をおかけください。

## CONTENTS

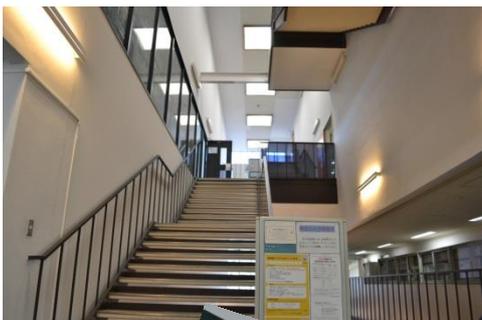
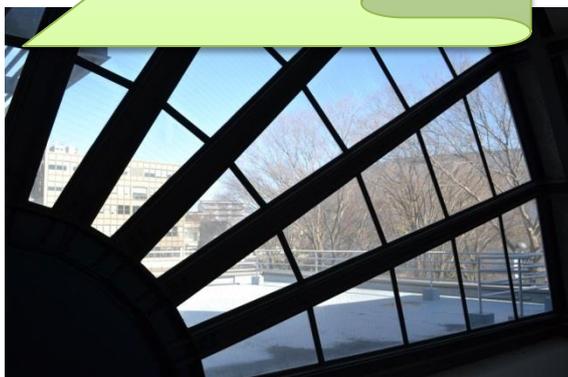
①活動の場から

②フィールドワーク

2018.10月～2019.3月

③日本文化紹介

④おすすめスポット



## フィールドワーク

2018. 10月～2019. 3月

### 《東洋文庫ミュージアム見学》

10月12日（金）、自主研修として東京駒込、六義園近くにある東洋文庫ミュージアムを訪問しました。入館許可シールを付け、まずは自由見学をしました。

東洋文庫は、三菱第三代当主岩崎久彌が1924年に設立した東洋学分野での日本最古・最大の研究図書館で、世界五大東洋学研究図書館の一つのことです。蔵書は、漢籍をはじめとするアジア諸地域言語文献、洋書、和書に大別され、国宝5点、重要文化財7点を含む約100万冊。これら貴重書コレクションを通じて、アジアの歴史や文化に興味を持ってもらうことを目的としてオープンしたのが東洋文庫ミュージアムだそうです。

東洋文庫ミュージアムといえば、「モリソン文庫」です。照明を落とした書庫の中は時空を超えた深い琥珀の世界。G.E.モリソン（医学を修めジャーナリストであり中華民国総統府顧問なども務める）と、その文庫を購入した岩崎久彌の東洋への情熱と行動力を強く感じました。文庫前に置かれた紹介パネルひとつひとつに深く頷き、あらためて見上げては感嘆するばかりでした。



1階のオリエントホール（東洋文庫の歩み、世界中の言語で記された古書・絵図など展示）を経て、2階には、モリソン文庫の他、特別展のエリア、デジタル映像の展示、国宝などが展示されたエリアなどもあり、モリソン文庫渡来100周年の「東方見聞録展」も公開中でした。3階には閲覧室があり、貸出は不可なのですが無料で資料の閲覧ができるそうです。

ほとんどのメンバーが15時からの無料ガイドツアーにも参加し、軽い疲労感とそれを上回る歴史への感動を胸に帰路に就きました。

### 《東洋文庫ガイドツアー感想》

自由見学のあと、学芸員による3時からのガイドツアーに参加しました。やはり、展示解説だけでは得られない、はるかに興味深い知識を得ることができました。「モリソン文庫」の大書架は、色々なメディアに登場し、撮影も行われるとのこと。貸し出された本の場所には、台本板ならぬ台本片が所々挟んでありました。意義深くあっという間の30分のツアーでした。

### 《ボランティア向け講演会》

#### 「聖徳太子伝承と聖遺物」

11月28日、懇談会と交流会に続いて、人文社会系の谷口孝介教授による「聖徳太子伝承と聖遺物—「細字法華経」の場合—」の講演会が行われました。平安時代に聖徳太子がどのように語り継がれてきたか。聖徳太子が夢殿に籠もり自分の魂を青龍車に乗せて飛ばし、前世の南岳大師の同朋の法華経を取り寄せたという伝承について、延暦寺東塔法華三昧堂壁画の聖徳太子賛（聖徳太子を南岳大師の生まれ変わりであると書かれている）や694年に李元恵が書写した「細字法華経」などの資料を用いて熱心に話して下さり、古い資料を読み解いていくことをとても楽しんでいらっしゃるように感じました。（「細字法華経」は東京国立博物館蔵。細字法華経で検索してみると、e国宝 国立博物館所蔵 国宝・重要文化財のページから画像と解説を見ることができました。<http://www.emuseum.jp/detail/100207>参照）

こうした講演会は、ボランティアの教養の向上のため、また大学の教育的機能の一端を経験することができるよう図書館主催で開催されているものです。第1回は平成8年のボランティア1周年記念特別講演「辞書の話」で、講師は当時の北原保雄附属図書館長、以後毎年、附属図書館長あるいは筑波大学の教員の方々が講師となって開催されており、内容は図書館、文字、書物、生涯学習にかかわることから、講師の先生の専門分野までさまざまです。

図書館でのボランティア活動は無償で交通費も出ません。でも講演会のほか、学内・学外施設見学やフォローアップ研修、企画展・特別展のギャラリートークなど、面白くてためになる企画に参加できます。年齢を重ねてすぐ忘れてしまうのが我ながら困ったものですが、都合のつく限り出席して楽しみながら学びたいと思っています。

## 日本文化紹介活動

### 《おりがみ講習会》

12月5日(水)、おりがみ講習会が開催されました。今回のテーマは、クリスマスにも使える星形リースでした。8枚のユニットを組み合わせてリースにします。今回学生さんの参加が少なかったため、マンツーマンで対応することができて良かったです。学生さんは、色を変え、大きさを変えて、いろいろな挑戦をしていました。

1つのユニットの折り方はいたってシンプルなのですが、右、左、裏、表と繰り返します。これがどうしてやはり頭の体操で、覚えるまでは複雑なのです。同じことを8回繰り返します。色を選んで、組み合わせると、素敵なリースが出来上がりました。参加者の方から、次回の開催の問い合わせがありました。この会を楽しんでもらい、おりがみに興味を持って下さったのだと嬉しく思いました。



2月13日(水)、今年度3回目のおりがみ講習会が開催されました。今回のテーマは、来月3月3日の雛祭に合わせて季節もののお雛様。多種ある折り方の中から今回は「小笠原雛」が選ばれました。おりがみを折る事で日本文化を再認識しつつ、参加して下さった外国人留学生と交流できる場として、おりがみ講習会は本当に有意義なものと感じました。



毎年この時期恒例となっているかるた会が、今年は1月28日(月)並木交流センターで開かれました。まずは美味しいお弁当で腹ごしらえをして、かるた会開始。皆で持ち寄った

### 《かるた会》

毎年この時期恒例となっているかるた会が、今年は1月28日(月)並木交流センターで開かれました。まずは美味しいお弁当で腹ごしらえをして、かるた会開始。皆で持ち寄った



色々なかるたの中から、取り札が変体仮名で書かれた木製のかるたを選んで、取り始めたものの、変体仮名の判読がなかなか難しく、みんなで確認しつつ札を取るという有り様で時間もかかってしまい、その1回で終了。その後、これも恒例のお抹茶と和菓子を楽しみ、今年も楽しい会となりました。

### おすすめスポット

桜の季節です！お花見、いかがですか？昨年の桜スポットです。

天久保池の桜

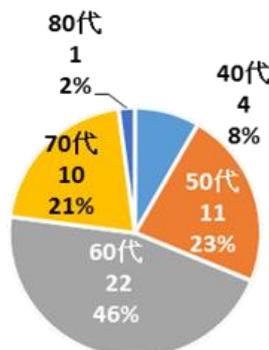


松美池の桜

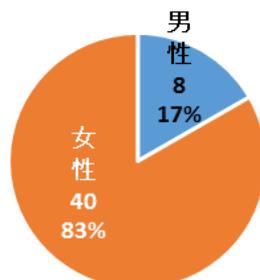


### ボランティア登録状況

#### I.年代別



#### II.男女別



## 主な活動・・・こんなことをしています

ボランティアは中央図書館と体育・芸術図書館で活動しています。活動時間は毎週月曜日から金曜日の10時から16時(午前のシフトは10:00～13:00、午後のシフトは13:00～16:00)です。現在、つくば市及びその近郊の市民、約50名が活動しています。



### 総合案内

図書館利用者すべてに対する、館内の資料配置の案内やパソコンによる資料検索の手伝い。館内巡回。



### 利用環境整備(セルフフリーディング)

中央図書館及び体育・芸術図書館の書架の整理や、不明図書探索、図書ラベルの補修



### 美術展ポスター整理(体育・芸術図書館にて)

全国の美術館・博物館から送られてくる展覧会ポスターの掲示とデータベース化。



### 図書修理

専門的な製本技術を使った図書の修理。



### 見学案内

新入生、留学生、中高生、一般、海外からの見学者に図書館を案内する。



### 対面朗読

視覚障害者のための対面朗読。館内での資料探索の支援。



### 広報

広報誌「うたがき」、「図・ボラの会」会報の発行



### 日本文化紹介

月1回の勉強会と、年3～4回の、主に留学生を対象とした折り紙講習会。新年かるた会。



### 園芸部

図書館入口にある花壇の整備と季節の花の植え替え



### ☆うたがきのあとがき☆

新生うたがき第5号をお届けします。今回のボランティア活動紹介は見学案内です。一般の図書館とは少し違う役割を持っている大学図書館の特徴を、短時間にご案内するやりがいのある活動です。今年度後半には、学外見学・講演会・おりがみ・かるた会と、盛りだくさんの行事がありました。その一端をご紹介します。

編集:筑波大学附属図書館ボランティア広報部  
発行:筑波大学附属図書館  
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1  
TEL 029-853-2348 (アカデミックサポート課)

開かれた大学図書館として広く学外の利用者の方々に開放しています。

詳しくは、<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp> をご覧ください。

\* 筑波は、遙か昔に歌垣の習俗があった地。色々な人の声を聞き応え合うことで繋がり、発展を生み出すことを望み、広報誌「うたがき」としました。